

つり環境ビジョンコンセプトに基づく

LOVE BLUE

事業報告書

2016

～全国に広がる感謝の輪～



LOVE BLUE

地球の未来を

つり環境ビジョン

未来へ残したい美しい地球の つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業

ア

(株)アイビック
(株)アイビーライン
アキレス(株)
(有)アクティブ
アサヒレジャー(株)
アチック
(株)アピア
(株)アムズデザイン
(有)アリゲーター技研
アングラズリパブリック(株)
(有)アングル
(株)アングラズ
アングラズサポートシステム(株)
アングラズデザイン(株)
(株)イシグロ
(有)イシナダ釣工業
五十鈴工業(株)
(株)issei
ING.co.,
INFINITE SEEDS MAKERS(株)
ヴァンフック(株)
ウインインコーポレーテッド、ジャパン
(株)ウィング
植田漁具(株)
(株)ウォーターハウス
(有)ウォーターランド
(株)魚矢
(株)宇崎日新
ウチダトレーディング・モリックスジャパン
(株)エイチ・エー・エル
(株)エイテック
(株)ESTATE
エフ・ケイ
(株)エバーグリーンインターナショナル
(有)エムワントレーディング
(有)オー・エス・ピー
OSGS
(株)オーナーばり
(株)オーパデザイン
(株)オオモリ
(有)オジーズ
(株)小野由

(株)オフィスアクセル
(有)オフィス・ユーカリ
オフト(株)
(株)オリムピック
(株)オンスタックル

カ

(株)鶴祥
景山産業(株)
(株)カズマーク
(株)カツイチ
(有)加藤精工
カハラジャパン(株)
(有)カビイ
(株)がまかつ
(株)川せみ針
(有)ガンクラフト
(有)カラーズインターナショナル
(有)関門工業
(株)KIOB
(株)キサカ
(株)キザクラ
(株)清光商店
(株)KILLER HEAT
(株)クリーブラッツ
クレハ合繊(株)
グローブライド(株)
(株)Grayhound
(株)ケイテック
(株)ゲインコーポレーション
(株)ケーター関東
ゲーリーインターナショナル(株)
ケンインターナショナル(株)
(株)剛樹
(株)ゴーセン
(株)コヒナタ

サ

(株)34
(有)財津釣具
(有)サウスウィンド
栄通商(株)
櫻井釣漁具(株)
(株)ささめ針
(株)ザップ

THE OWL GENE LURE'S
(有)サニー商事
サポートエンジニアリング フラー
サンヨーナイロン(株)
(株)サンライン
(株)ジークラック
(株)シーフロアコントロール
(株)シマノ
(株)清水
(株)下田漁具
(株)ジャクソン
(株)ジャッカル
(株)ジャンプライズ
NPO法人ジャパンゲームフィッシュ協会
(株)上州屋
skillful
(株)スズミインターナショナル
スターンキーパー(株)
スタジオディーピーアイ(株)
スティールハント
(株)スナガ
(株)スミス
(株)スポーツライフプラネッツ
征興産業(株)
(株)ゼニス
(株)ゼファーボート
(株)双進

タ

第一精工(株)
大同
大同石油(株)
ダイトウブク(株)
太陽産業(株)
(株)ダイレイ
タカ産業(株)
高階救命器具(株)
(株)タカミヤ
(株)タックルハウス
谷山商事(株)
タブリエ・コミュニケーションズ(株)
(株)ダミキジャパン
(株)ダン
痴虫

ために 今 私たちは行動します

241社・団体参加(2017年8月31日現在 50音順)

中央漁具(株)
 (株)津田商会
 (株)ツネミ
 (株)釣研
 つりー(株)
 (株)テクノス
 (株)DRT
 D-CLAW
 (株)DSTYLE
 (株)ディパース・ファクトリー
 TICA JAPAN(株)
 (株)ティムコ
 design KONI
 (株)デプス
 (株)デュオ
 (株)天龍
 (有)トオヤ
 (株)土肥富
 東亜ストリングス(株)
 東邦産業(株)
 東レ・モノフィラメント(株)
 DRANCKRAZY(株)
 DreemUp
 ドリームエクスプレスルアース
 ナ
 (株)内外出版社
 (株)ナカジマ
 ニッコー化成(株)
 (株)NOIKE
 ハ
 ハイドアップ(有)
 (株)ハイテックボート
 バスディ(株)
 (株)バスディジャパン
 (株)林釣漁具製作所
 (株)ハヤブサ
 はり秀(株)
 (株)ハリミツ
 (有)HMKL
 HAND MADE LURE HIRO
 (株)ビーエムオージャパン
 プエブロ(株)
 ピュア・フィッシング・ジャパン(株)

(有)ヒロカコーポレーション
 BeveL
 FIELD BACK
 Fishman(株)アレア
 (株)フォレスト
 富士工業(株)
 富士灯器(株)
 (株)フジノライン
 (株)フジワラ
 藤原辰次商店
 (株)ブリーデン
 ブルーブルー(株)
 プロズワン
 (株)プロックス
 ベイトプレス
 (株)ベルモント
 (株)北摂マリン
 BOREAS
 Bottomup(株)
 (株)ボンバダアグア
 マ
 (株)マガジン・マガジン
 マルキュー(株)
 丸米商事(株)
 (株)マルシン漁具
 MARUTE
 (株)まるふじ
 mibro
 (株)ミヤマエ
 (株)ムカイフィッシング
 (株)名光通信社
 明邦化学工業(株)
 メガバス(株)
 (有)メガテック
 (株)モーリス
 (有)もちづき釣具
 (株)もりげん
 moriken speed bite
 ヤ
 (株)ヤマイ
 山田電器工業(株)
 山豊テグス(株)
 山本光学(株)

(株)ヤマリア
 (株)ヤリエ
 ユニチカ(株)
 (有)よつあみ
 フ
 (株)ラインシステム
 落花生
 (株)ラッキークラフト
 (有)ラガチャイナ
 Rattytwister
 ラパラ・ジャパン(株)
 REALS
 (株)リガーレ
 (株)リコーサーバンス
 (株)リチャーズ
 リトルジャック(株)
 (有)リトルプレゼンツ
 リミット
 +Rooms'
 lure angle HAMA
 ルアーショップ アンドウ
 LURESHOP riprap
 (株)ルミカ
 RAID JAPAN(株)
 LESS is MORE
 (株)レイン
 LEGAME (レガーメ)
 レジットデザイン株式会社
 (株)レスターファイン
 (有)ロデオクラフト
 フ
 (株)脇漁具製作所
 (株)ワールドスポーツ
 (株)ワトスファクトリー
 WILDFINS
 (株)和田製作所

< 寄付企業 >

ー 2016年度 ー
 (株)釣りビジョン

つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業のあゆみ



2011年度

(社) 日本釣用品工業会

- ワーム湖底・海底清掃開始
- ビジョン「つりの未来のために私たちができること」策定
- 業界内 666 社に向けアンケート実施

2012年度

(社) 日本釣用品工業会

- 提言「つり環境ビジョン 2012」発表
- (社) 日本釣用品工業会と(公財) 日本釣振興会の連携開始



(社) 日本釣用品工業会・(公財) 日本釣振興会は、合同会議 7 回開催

2013 年度

(一社) 日本釣用品工業会と(公財) 日本釣振興会は、「つり環境ビジョン事業」を協働事業としてスタート

清 掃 事 業

(一社) 日本釣用品工業会
4 県 4 箇所 17 日実施

(公財) 日本釣振興会
15 府県 29 箇所 29 回実施

放 流 事 業

(一社) 日本釣用品工業会
約 20 万尾放流

(一社) 日本釣用品工業会・(公財) 日本釣振興会は、合同会議 4 回開催

2014 年度

清 掃 事 業

(一社) 日本釣用品工業会
20 道県 40 箇所 166 日実施

(公財) 日本釣振興会
11 県 27 箇所 27 回実施

放 流 事 業

(一社) 日本釣用品工業会
約 20 万尾放流

2015 年度

釣り場拡大事業

(公財) 日本釣振興会
新潟県柏崎港西防波堤開放

(一社) 日本釣用品工業会・(公財) 日本釣振興会は、合同会議 5 回開催

清 掃 事 業

(一社) 日本釣用品工業会 (公財) 日本釣振興会
19 道県 39 箇所 150 日実施 13 県 30 箇所 30 回実施

地球環境基金企業協働プロジェクト
つり環境ビジョン助成 8 団体助成

放 流 事 業

(一社) 日本釣用品工業会 (公財) 日本釣振興会
約 20 万尾放流 35 箇所 156,333 尾 84,175 粒 3,709Kg 放流

釣り場拡大事業

(公財) 日本釣振興会
マナー看板 4 箇所 30 枚設置

(一社) 日本釣用品工業会・(公財) 日本釣振興会は、合同会議 6 回開催

2016 年度

清 掃 事 業

(一社) 日本釣用品工業会 (公財) 日本釣振興会
20 道県 37 箇所 150 日実施 11 都府県 24 箇所 24 回実施

地球環境基金企業協働プロジェクト
つり環境ビジョン助成 8 団体助成

放 流 事 業

(一社) 日本釣用品工業会 (公財) 日本釣振興会
約 20 万尾放流 153,385 尾 84,000 粒 3,977Kg 放流

釣り場拡大事業

(公財) 日本釣振興会
新潟県直江津港第 3 東防波堤を開放
マナー看板 32 箇所 154 枚設置

(一社) 日本釣用品工業会・(公財) 日本釣振興会は、合同会議 4 回開催

LOVE BLUE 事業報告書 2016

～ 全国に広がる感謝の輪 ～

目次

I 参加企業

II LOVE BLUE 事業のあゆみ

III (一社) 日本釣用品工業会 2016 年度事業報告

IV (公財) 日本釣振興会 2016 年度事業報告

V 2016 年度事業収支報告書

巻末 松下和夫京都大学名誉教授 ～ LOVE BLUE 事業報告書 2016 発刊にあたり～



(一社)日本釣用品工業会 2016年度事業報告

- ・ 水中清掃
- ・ 地球環境基金 企業協働プロジェクト つり環境ビジョン助成
- ・ 専門機関と連携した放流

環境省表敬訪問

LOVE BLUE 事業が取り組む社会貢献事業について、これまで積み重ねてきた実績等をご説明するため、環境省へ表敬訪問を行いました。



中央：小林正明環境事務次官、左から松下和夫京都大学名誉教授、大村一仁副会長、島野容三会長、小島忠雄顧問

島野会長より、「当初は釣り場の清掃から始めた事業ですが、今では LOVE BLUE 事業として、例えば全国の各自治体を通じて、各地の皆様からプロダイバーによる水中クリーンアップへのご要望をお寄せ頂けるようになるなど、多くの皆様に喜んで頂ける社会貢献事業となって参りました。昨年（2016年）の G7 伊勢志摩サミットでもプロダイバーによる水中クリーンアップ活動をお役立て頂くなど、様々なご要望にお応えしております。LOVE BLUE 事業は、参加企業が全ての釣用品に『環境・美化マーク』を表示し、その

売り上げの一部を自主財源として取り組んでいるものです。これからも御省と連携しながら地球環境のためにより一層努めて参りたいと思います。」と当事業について説明を行いました。

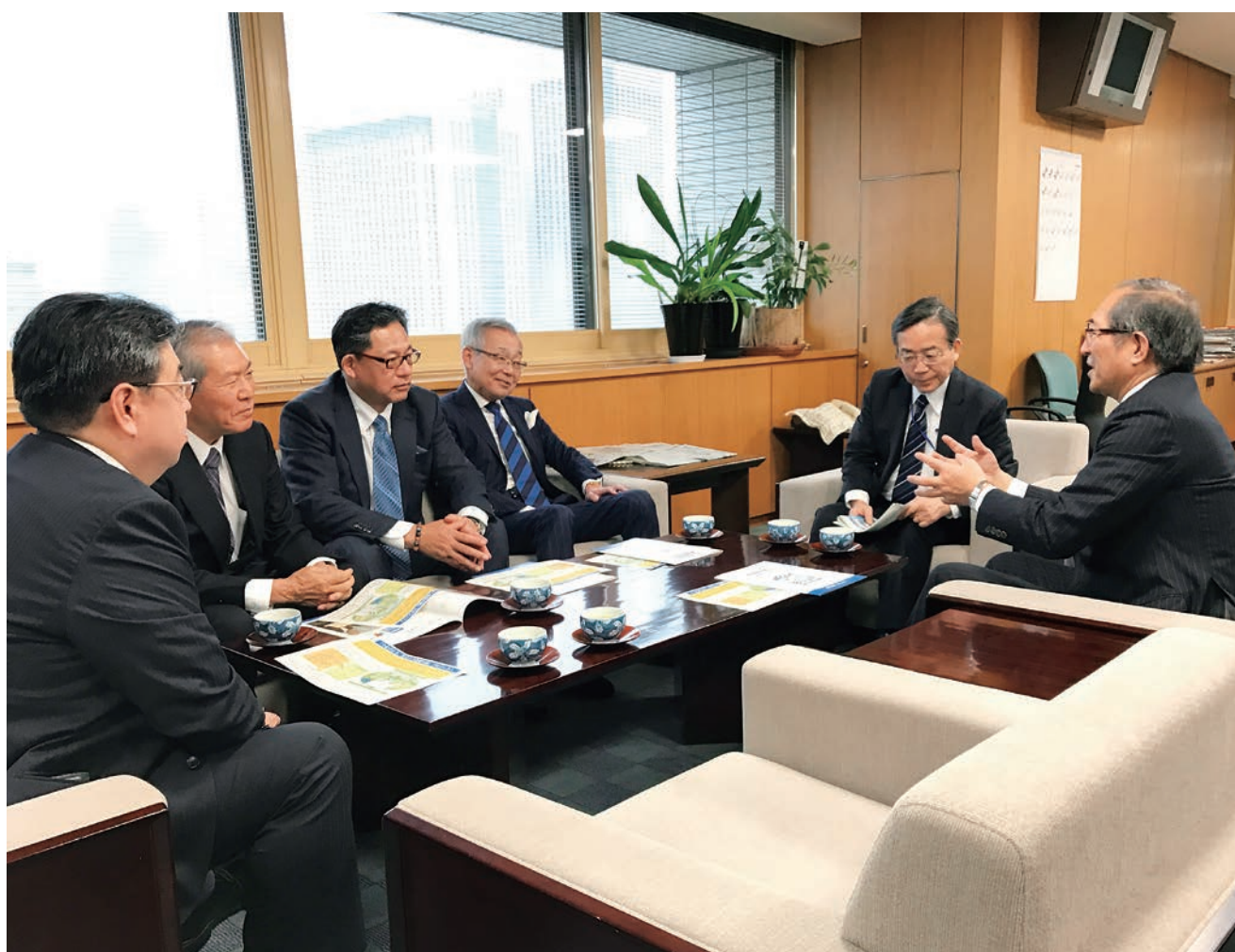


環境省小林正明事務次官を 島野容三会長、 大村一仁副会長、小島忠雄顧問、 柿沼清英理事が表敬訪問

2017年1月20日(金) 環境省事務次官室

環境省 小林事務次官からは「今また温暖化や世界中で水の危機が起こるのではといわれる中、世界の中でも水の豊かな日本で気候の変動へ耐えて行けるような取り組みを関係省庁へ呼びかけながらご協力を頂いているところ

です。その意味で、水への関心を高める取り組みという観点でも、皆様の取り組まれている社会貢献事業、大変すばらしいと思います。今後ともぜひ頑張ってください。」などのお話がありました。



環境省事務次官室にて

茨城県龍ヶ崎市長を表敬訪問

LOVE BLUE 事業は社会貢献事業として取り組むプロダイバーによる水中クリーンアップ活動について、2017年5月12日（金）茨城県龍ヶ崎市 中山一生市長へこれまでの活動への理解と協力に対して、LOVE BLUE 委員会 小島忠雄委員長らが龍ヶ崎市役所へ表敬訪問を行いました。



左：中山一生 龍ヶ崎市長、右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長

茨城県龍ヶ崎市中心一生市長へこれまでの活動への理解と協力に対して、小島忠雄委員長らが龍ヶ崎市役所へ表敬訪問

2017年5月12日(金) 龍ヶ崎市役所

茨城県での LOVE BLUE 事業へご理解ご協力の御礼

小島忠雄委員長（以下委員長）：「本日は、お忙しい処、貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。私どもは一般社団法人日本釣用品工業会と申しまして、釣用品メーカー125社の団体ですが、その会員企業のみならず、釣用品メーカーなど241社・団体と取り組む LOVE BLUE 事業について、茨城県では大変お世話になっておりまして、霞ヶ浦を始めとして、2015年にラムサール条約の登録湿地となられた、涸沼（ひぬま）や、貴市の牛久沼でも、私どもの活躍の場を頂きましたこと、本当にありがたく思っております。心より御礼申し上げます。

浄財を基にした、公平・公正な事業を全国で実施

委員長：「この事業は、全国の多くの釣りに関係している企業などにご参加頂き、ユーザーの皆様からの売上の一部を自主財源とした浄財を基に、地球の未来を志向する社会貢献事業として全国で活動を進めています。したがって、本事業の実施にあたっては、できるだけ公平・公正に進めて参りたいと思っております。水中クリーンアップの場所についても、釣り具のマーケットシェアに応じて、その中で管理者や利用者の皆様からのご要望をベースに優先順位を付けて順次実施をしています。

最近では、昨年の G7 伊勢志摩サミットでも、開催に向けたおもてなし事業の一環として、



中山一生 龍ヶ崎市長

水中クリーンアップをさせて頂けるようになるなど、各地で地道に活動を進めながら、ようやく5年目となりまして、少しずつ、みなさんに知って頂けるようになり、全国各地から水中クリーンアップのご要望をお寄せ頂けるようになって参りました。また、貴県では、2018年秋に世界湖沼会議が開催されると伺っております。私どもでお手伝いできることでお役に立てればと思っております。

龍ヶ崎市は、釣りに良いところ。 釣り人に沢山きて頂けると大変よい。

中山一生市長（以下市長）：「毎年、水中クリーンアップに来て頂いて、本当にありがとうございます。当市の広報でもご紹介させて頂きます。龍ヶ崎市は、牛久沼もそうですが、小貝川と旧小貝と中沼、小野川なども

ありますが、釣りをする方には良いところという話が定着しているということは大変嬉しく思います。以前は観光協会で釣り大会なども催されていたこともあり、釣り人たちに沢山来て頂けると大変良いと思います。」

水中クリーンアップで釣りのイメージアップに。そしてマナーを守った釣りを。

市長：「一方で、やはりマナーの問題が、ハクチョウがいたりするところで、色々問題があったこともありますが、最近はどうでもないのですが、針とか糸というマナーの問題を問題視するかたもいらっしゃるのも事実です。水中クリーンアップ活動をされることで、イメージアップにつながると思います。龍ヶ崎市としては、ちょうど牛久沼のこれからに向けて、動き出すタイミングに貴会とのご縁がぴったりあります。釣り人にとってもそうだと思いますが、あれだけきれいな自然環境の中に、人がたくさん来て自然を楽しんだり、ゆっくり時間を過ごすような場所があればということで、道の駅を牛久沼の水辺に整備しようと進めているところです。そなればまた釣り人の方にも駐車場としてご利

用頂けると思います。今後の取り組みについて、良い連携ができましたらと思います。」

委員長：「我々も LOVE BLUE 事業に関する委員会で毎月一回程度、事業推進の検討を真剣に取り組んでいます。お役に立てることがありましたら、色々お知恵をお借りしながら、お仲間に入れて頂くと非常にありがたいです。なかなか行政とこのようなご縁を結ぶのは大変なことなので、これを機に、共に一生懸命に水辺を守るというんでしょうか、そのためにどうすれば良いかということが全国各地で進めば良いと思います。」

環境を第一に進める、LOVE BLUE 水中クリーンアップ活動

委員長：「割と関東圏は人口が多いですし、釣り人も多いですが、今は、残念ながら釣る場所がだんだんと減ってきておりまして、ご理解の頂けるような場所を私どもとしても優先的にご協力させて頂き、共に良い関係構築ができればと私自身は思っております。今まで、海面の港湾や漁港などからのご要望や、内水面の琵琶湖や霞ヶ浦などをはじめとした湖沼・河川などのご要望も頂いております。



2016年7月11日から7月15日まで実施した、牛久沼での水中クリーンアップ活動

当会が進める水中クリーンアップは、水辺の環境保全に重点を置き、社会貢献事業として取り組みを進めております。したがって、各地の管理者や利用者みなさまからのご要望にお応えするよう、一生懸命に水中クリーンアップをさせて頂くという考え方で、環境を第一に進めています。」

市長：「だから水中の不法投棄や様々なゴミの回収に、お取組みになっていらっしゃるわけですね。牛久沼は河川区域ということもあり、茨城県の竜ヶ崎工事事務所さんとも、大変ありがたいなという話になっていました。色々清掃頂きありがとうございました。」

委員長：「プロダイバーによる水中クリーンアップも事業開始以来、一切無事故でございまして、安全管理についても相当神経を遣ってやらせて頂いております。期間としては3日～5日間程度を基本として、一日4回、4名のダイバーが年間通して潜水しております。」

釣りは文化、奥が深い。そして、牛久沼も懐が深い。

市長：「それにしても、奥が深いですね。釣りの世界というのは。日本の竿でも鑑定番組に時々出てきますが、びっくりするような値段が付きますよね。骨董的な価値もさることながら本当に文化ですね。釣りも。」

委員長：「そうですね、太公望といわれる時代から、今でも好きな方は本当に凄いです。本当にこの文化が少しでも皆さんに愛され



小島忠雄 LOVE BLUE 委員長

て、伸びて行くことを願うばかりです。そのために、我々でできることを少しずつ恩返しさせて頂こうと取り組んでいます。」

市長：「水辺のスポーツなど様々な楽しめる、その意味でも、牛久沼ももの凄く懐が深い、奥が深いですので、色々な形で楽しめる場所になるのではないかと思います。」

LOVE BLUE 事業は全国で喜ばれる事業

市長：「いずれにしても、我々龍ヶ崎市はもちろんですけれども、LOVE BLUE 事業は全国できっと喜ばれる事業だと思いますので、是非頑張ってもらえれば、みなさんも喜ばれると思いますので、牛久沼も含めて宜しくお願いします。『LOVE BLUE』っていいのが良いですね。さわやかな清冽なイメージで。今日は、かえってご丁寧にご来訪頂きましてありがとうございました。」

委員長：「こちらこそ貴重なお時間を頂きありがとうございました。これからも茨城県下を含め頑張ってお参りますので、ご指導の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。」

漁業協同組合の皆さんからの感謝の声

2016年11月30日水曜日、石川県漁業協同組合穴水支所 運営委員長 ^{こいずみ かずあき} 小泉 一明さんが、一般社団法人日本釣用品工業会の事務所を訪問され、水中クリーンアップ活動のお礼を述べられました。



小泉運営委員長

漁業者の皆様のご要望に沿うような作業の実施

事務局：本日は、事務所までお運びいただきましてありがとうございます。

小泉運営委員長（以下 委員長）：前波漁港も、おかげさんできれいになりました。

事務局：我々に活躍の場を与えていただき、ありがとうございます。本当にお世話になりました。皆様方のご理解・ご協力をいただき、何とか実施させていただいております。

委員長：いえいえ。本当にとんでもないです。

事務局：実際に水中クリーンアップ活動に我

小泉 一明 石川県漁業協同組合穴水支所 運営委員長が来訪

2016年11月30日(水)10:30～ 東京都中央区 日本フィッシング会館 5 階

々が入らせていただいて、地元の皆さんの反応というか、そういうのはどうですか。ご迷惑になっていないでしょうか。

委員長：本当に喜んでますよ。自分たちの要望に応じて、清掃をやっていただける。例えば、保管してある漁具等には触らないとか。私らも作業の現場を見て、プロのダイバーの皆さんにお話を聞いたりして初めて分かったんですけど、本当にそのままにしてもらえる。

事務局：水の中で保管をされているということですね。

委員長：はい。そういうのが結構ありますよ。だから本当に助かっていますよ。

地域の特性の応じた清掃

事務局：我々が現地を視察した際、委員長にもご同行いただきましたが、雪が降っていて、本当に寒い中で波の音と雪の降る風しか聞こえないような。春先も、雪解け水が出てきてかなり水中は冷たいとか、ご指導いただきました。

委員長：ありました。ありました。

事務局：石川県内での実施だけではなく、他県でも地元の方にご指導いただき、経験を積ませていただいています。

委員長：こちらこそ、本当にありがとうございます。



2016年5月20日から5月22日まで実施した、前波漁港での水中クリーンアップ活動

漁業協同組合の皆さんからの感謝の声

2016年6月28日 山形県鶴岡市鼠ヶ関港にて、山形県漁業協同組合 念珠関統括支所 佐藤修 統括支所長にお話を伺いました。



佐藤修 統括支所長

地域の皆様のご要望に沿った水中クリーンアップ活動

事務局：本日は、お忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。また、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動をご要望いただきましたこと、改めましてお礼申し上げます。

佐藤統括支所長（以下統括支所長）：こちら

こそ、ありがとうございます。

事務局：ここ鼠ヶ関港での水中クリーンアップ活動は、3年目となり地元の皆様にとってどのような印象でしょうか。お役立ていただいておりますでしょうか。

統括支所長：本格的な装備で、無料でしかもごみの処分までやってもらえる。こんなうまい話が本当にあるのかと思っていました。

佐藤修 山形県漁業共同組合 念珠関統括支所統括支所長に伺う。

2016年6月28日(火) 山形県鶴岡市鼠ヶ関港

でも実際清掃に入ってもらって、こちらの要望通り作業をしてもらえし、何よりも作業員の方々は礼儀正しいし、いつも気持ちの良い挨拶をしてくれる。本当にありがたいと思っていますよ。

事務局：日本全国どこでも、まずは地元に皆様方から清掃へのご要望をいただき、そして丁寧にお話を伺い、地元ならではのルールに沿って清掃をさせていただいています。

統括支所長：漁師は水中のどこにごみがあるかわかってはいても、船が小さいし、まず潜る技術がない。本当に助かっています。



緑の旗がお貸し頂いた漁連の旗です

漁業協同組合との連携 作業にあたり、組合の旗をお借りしました。

事務局：清掃にあたりまして、山形県漁業協同組合の皆様からのアドバイスで、組合の旗をお借りいたしました。見慣れない作業員が、海中に潜っていると地元の皆様に不安を与えてしまいます。旗をお借り出来たことで、そういった問題を解消することが出来ました。

統括支所長：季節外れに潜っていると、住民や漁師が心配するからね。この旗が出ていると安心です。問い合わせがあってもスムーズです。

第36回全国豊かな海づくり大会 ～やまがた～ との連携

事務局：今回のプロダイバーによる水中ク

リーンアップ活動は、第36回全国豊かな海づくり大会～やまがた～と連携させていただいています。大会記念行事としていただいていた実施となりました。これも私たちの活動をご要望いただき、ご理解とご協力あつてのことです。本当にありがとうございます。

統括支所長：漁港がメインの場所で開催するのは珍しいと思うけど、大会前に会場を清掃してもらえるのはうれしいよね。皆さんをきれいな場所にご案内できる。

事務局：本日はご多用中、お話を伺わせていただきましてありがとうございました。皆様のお役に立てるようこれからも水中クリーンアップ活動を行ってまいります。今後ともよろしくお願いします。

統括支所長：こちらこそよろしく。お世話になります。

全国に広がる感謝の輪 ～水中クリーンアップ活動編～

碧い生命の地球、その環境保全を大きな志として、LOVE BLUE事業では、公平性の観点から全国を7ブロックに分け、当工業会実施の客観的なアンケート結果を踏まえ、全国の各都道府県・市町村、漁業者などの皆様からのご要望を基に実施場所の選定を行い、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動を実施させていただいています。

プロダイバーによる水中クリーンアップ活動に際しては、陸上と水中の常時無線交信設備を装備するなど、万全の安全管理を徹底し、関係機関への許可・届出・周知等を整えて実施しております。また、回収したごみは産業廃棄物として責任をもって適切に処分しています。

LOVE BLUE事業で実施する、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、2013年度の事業開始より2016年度に至るまで、4年間累計25道県121箇所485日を無災害で進めています。



プロダイバー水中クリーンアップ活動地域マップ

全国 **37** 箇所 **150** 日実施
(累計 **485** 日実施)

大分県別府市 別府港



大分県別府土木事務所管理課
副主幹 佐藤 元一さん

寒いなかありがとう



「実は、私が釣り好きということもあって、LOVE BLUE の水中クリーンアップ活動のことは知っていました。また、私自身、海を守るために清掃活動することにはとても関心がありましたので、今回のお話をお受けさせていただくことにしました。別府の海は、この時期が一番澄んで美しいのですが、玄界灘からの北風が山を

超えて吹いてくるため気温が下がり寒いのです。夜は鶴見岳からの吹き返しの風も強いですね。だから今回、水中クリーンアップ活動を行う皆さんの様子を拝見し、『寒いなか、申し訳ないなあ。でも、ありがたいなあ』と強く思いました」

別府港のプロダイバーエントリー動画です。



実施経緯

大分県よりご要望を頂き実施

三重県熊野市 二木島港



熊野漁業協同組合 理事
山下 真次さん

海の中の清掃は本当にありがたい



「二木島港は湾の奥やから、流されてきたゴミが溜まりやすいんでね。僕らも岸壁の上は掃除するけど、海の中は専門の技術や装備がいるし、お金もかかるし、自分らではできないでしょう。だから、みんな『ありがたい』と言っているよ。水中クリーンアップ活動が始まって一番びっくりしたのは、作業員さん

たちがみんな礼儀正しいこと。誰かが通るたびに丁寧に挨拶してくれるから、ここの若い子らもみんな感心しとったよ。水中クリーンアップの時はちょうど、潮が巻いて海の底が濁っていたから、作業も大変だったと思うよ。ここは黒潮だけじゃなくて、底から入り込んでくる潮もあるからね。」

実施経緯

三重県、三重県漁業協同組合連合会、熊野市、熊野漁業協同組合よりご要望を頂き実施

徳島県海部郡美波町 由岐漁港



美波町由岐支所

浜 大吾郎さん

美しい自然環境を次世代につなげる
LOVE BLUE 事業の理念と同じ思いを持っています



「水辺をきれいにすることで、美しい自然環境を次世代につなげる。その LOVE BLUE 事業の理念は、“この地域を今よりもっとよくして次の世代に託したい”という私たちの思いと同じだと感じました。由岐では今も、子供は地域で育てるもの、という考えが残っています。その

良さを私たちが実行して、次の世代につなげなければと思っていますが、故郷を守るためには今回のように外部の力をお借りすることも必要です。小島さんのお話を聞いたり、プロのダイバーの仕事に触れたりすることが、子供たちにとって、とてもいい刺激になったと思いますね」



美波町産業振興課

小林 大起さん

子供も大人も『ゴミを捨てないようにしよう』という気持ちを再認識

「由岐の魅力は、昔ながらの漁師町の雰囲気がそのまま残っているところです。日々の暮らしと海との関わりがとても親密で、地元の人たちが積極的に海に関わってきた町なのだろうと感じています。海との関わりが深い町だからこそ、海と向き合う姿勢を考えることは大事。水中クリーンアップ活動や環境教育授業が行われたことで、子供も大人も『ゴミを捨てないようにしよう』という気持ちを再認識したはずですよ。これを機に、漁業の町・由岐がさらに活気づいたらいいなと思っています」

東由岐漁業協同組合
代表理事組合長

宮本 勝さん

海の中は自分たちで
清掃できないのでありがたい

「地元の方は、水中クリーンアップ活動のことを『こんだけの機材を使ってしてくれるなんて、ごっつええなあ』言うてましたね。由岐での漁は、6月1日から9月中旬まで、アワビやトコブシ、サザエのかつぎをする(素潜り漁)のが中心。だから例年、5月31日にみんなで漁場に潜って、有害生物の除去をするんです。また、台風が来ると南風に乗って枝やらゴミが流れてきて、港の中に溜まるから、それをほうきで集めたりしています。いろいろやってはいるけど、海の中は自分らで掃除したくてもなかなかキレイにできないから、水中クリーンアップ活動は、ありがたいですよ」

実施経緯

徳島県、美波町、西由岐漁業協同組合、東由岐漁業協同組合よりご要望を頂き実施

LOVE BLUE 水中クリーンアップと地元の教育プログラム 「水プロ」が連携し由岐小学校で全校児童の皆さんに 小島忠雄委員長が環境教育を実施！



由岐小学校
校長

池本一彦 先生

も、環境教育授業は非常に意義があります。

自然を愛する心
は郷土を愛する
心につながり、
社会や周囲の
人々を愛する心
につながるはず。
そうした意味で



由岐小学校
6年担任(当時)

張間尚久 先生

ございました。普段自分たちの地域の財産
である美しい海をきれいにしようと取り組
んでおりますが、海中に対する意識は低く、
また清掃もできないため、貴重な体験をす
ることができました。これをきっかけに、
これから美しい海を守ろうとする児童を育
ていきたいと思います。

素晴らしい機会を与えていただいたことに
感謝申し上げますとともに、貴団体の活動
が今後益々発展されることを祈念申し上げ
ます。大変ありがとうございました。

本校環境教育授
業の一環として、
由岐漁港の水中
クリーンアップ
活動の様子を見
学させていただ
き、ありがとう

LOVE BLUE の 環境授業を終えた 児童の皆さんからの 感謝の手紙 (一部)

今日は、海中清そうについていろんな事
を教えてくださいありがとうございました。
海の中にオーブントースターや自転車などが
ありおどろきました。去年も来てくださり東
由岐漁港を清そうしてくれて、今年は、カン
やペットボトルなどの小さいゴミが、
少し増えていたと思いました。
海にゴミを捨てると、自分にもかかわる
くると言う事が分かりました。なので
絶対にゴミはゴミ箱に捨てたいです。
そして、海にいる魚や海藻や貝類などが
ずと食べれるようにしていきたいです。
今日、海中清そうについて教えてください
もらった事を、これからいろんな事に生かして
いきたいです。海が少しでもきれいにな
るようにしていきたいです。



由岐小学校
6年 戎井 那奈

由岐小学校 6年 戎井那奈さん(当時)

鳥取県境港市 境港

しゅんせつ
浚渫できない場所を清掃してもらえるのはありがたい



船が行き交う港の中は、海底が浅くならないように浚渫^{しゅんせつ}を行いますので、その際にゴミを取ることができます。しかし、今回、清掃いただいている桟橋付近は浚渫することがありませんので、きれいにしていただけるのは本当にありがたいですね。水中クリーンアップ活動がどのように行われるのか、私もとても興味があ

ります。あの桟橋は、鳥取県のなかでも特に伯耆富士がきれいに見える場所ですから、桟橋も海のなかも、きれいであって欲しいですね。境港管理組合 港湾管理委員会事務局 総務課 造営係 係長 川本 英生さんからのコメント

境港初日の映像がこちらからご覧いただけます。



実施経緯

鳥取県、堺港管理組合よりご要望を頂き実施

鹿児島県指宿市 山川漁港

素晴らしい活動の輪



山川町漁業協同組合 代表理事組合長川畑秀二さんからのお礼状

日本釣用品工業会
柿沼 清英 様

平成29年2月7日

山川町漁業協同組合
代表理事組合長 川畑秀二



水中クリーンアップ活動について（お礼）

拝啓 春寒の候、貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度は水中クリーンアップ活動による山川漁港水中清掃作業を5日間にわたり実施して頂き誠に有難うございました。

初日は小春日和を思わせる温かい日でしたが、最終日は寒雨の中での実施となり厳しく危険な作業であったと思います。改めてお礼申し上げます。

今回水中清掃作業を実施して頂き、改めて海中の美化に関心をもちました。

日頃水中にごみを見つけても技術や装備がないと諦めており、この様な作業をしない限り水中にあるゴミは永遠に変わらないと実感しました。

当組合も組合員清掃作業を実施しておりますが、回収したゴミにビンや缶が多いと聞き、ポイ捨てを減らす手段も何か考えていかなければならないと思っております。

美しい海を未来に残せる様、当組合も頑張って参ります。

貴社の更なるご健勝とご活躍、そしてこの様な素晴らしい活動の輪がますます広がります様心よりお祈り申し上げます。

〈抜粋〉

今回水中清掃を実施して頂き、改めて海中の美化に関心をもちました。

日頃水中にごみを見つけても技術や装備がないと諦めており、この様な作業をしない限り水中にあるゴミは永遠に変わらないと実感しました。当組合も組合員清掃作業を実施しておりますが、ポイ捨てを減らす手段も何か考えていかなければならないと思っております。美しい海を未来に残せる様、当組合も頑張って参ります。

実施経緯

鹿児島県、鹿児島県漁業協同組合連合会、山川町漁業協同組合よりご要望を頂き実施

プロダイバーによる 水中クリーンアップ活動の様子

① 事前の計画、関係各機関の了承とご理解とご協力を得た上で、作業に入ります。



② 作業従事者は、作業開始前に全員でミーティングを行い、お互いに体調や服装等を確認したのち、作業場所や天候等から想定される危険を議論する危険予知活動を行います。その後、潜水機材の確認を行います。



③ 潜水開始前にも潜水機材の点検確認を十分行います。水中間及び水中陸上間の通信を可能にする無線機も装備しています。(写真右：中央オレンジ色は、無線中継器)



- ④ エントリー時にダイバー及び潜水補助員の両方で周辺の安全確認を行います。



- ⑤ エントリー後も改めて、ダイバー同士が体調の確認、器材の点検等を行った後、潜水を開始します。

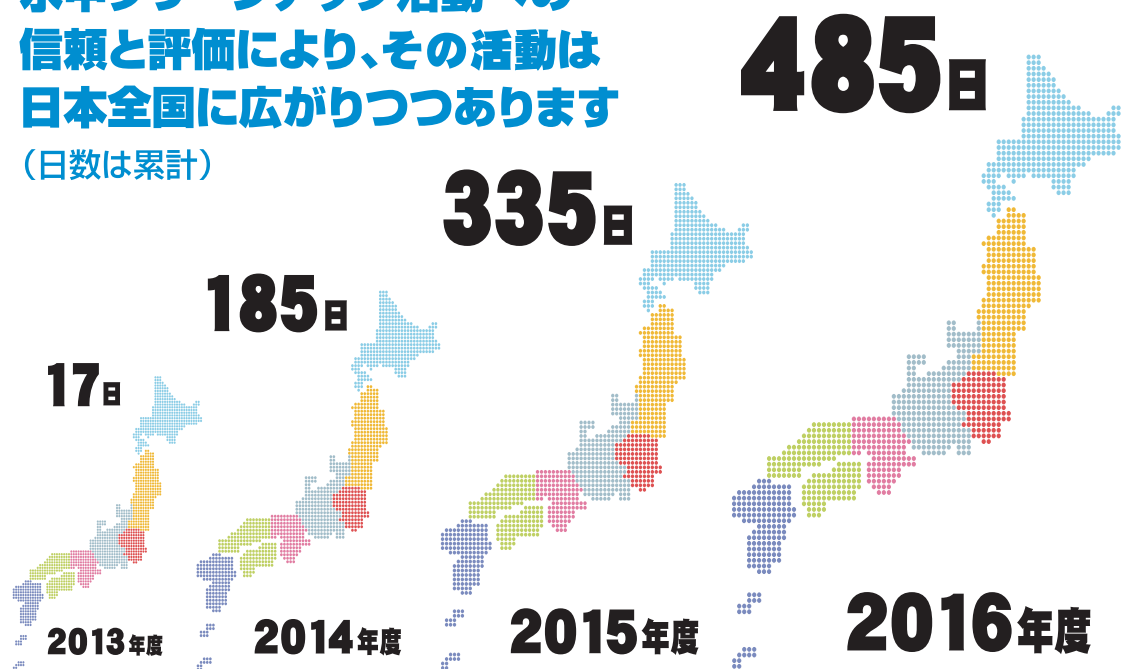


- ⑥ 作業終了後のミーティングでは、本日の作業内容の振り返りや明日の作業の確認などを全員で行います。



- ⑦ 安全第一の作業と熟練の技術で事業開始以来 485 日間無災害を継続しています。

**社会貢献として実施するプロダイバーによる
水中クリーンアップ活動への
信頼と評価により、その活動は
日本全国に広がりつつあります**
(日数は累計)



全国に広がる感謝の輪 ～地球環境基金 企業協働プロジェクト編～ つり環境ビジョン助成

独立行政法人環境再生保全 機構地球環境基金とは

当時の環境庁（現・環境省）が中心となり、民間団体（NGO・NPO）による環境保全活動への資金の助成その他の支援を行うため、1993年5月創設されました。

1993年度から2016年度までに延べ4,640件、総額156億円の助成を行うなど、NGO・NPOの環境保全活動を積極的に支援しています。

地球環境基金企業協働プロジェクト・ つり環境ビジョン助成とは

地球環境基金の支援する活動の中で特定の活動に対して支援をしたい寄付者の「想い」を反映させたプログラムです。

地球環境基金のビジョン・ミッションの範囲の中で、助成対象・分野・金額に独自性があり、選考などには、寄付者の「想い」が反映されます。

つり環境ビジョン助成は、一般社団法人日本釣用品工業会より寄付された資金によるものであり、清掃活動など、水辺の環境を構築するための助成金となっており、また4万人近い来場者があるジャパンフィッシングショーのメインステージで報告会も実施していただいています。

なお、2017年度よりつり環境ビジョン助成から LOVE BLUE 助成へと名称変更いたしました。



つり環境ビジョン助成では、当工業会主催のジャパンフィッシングショー（神奈川県横浜市パシフィコ横浜）のメインステージにて4万人近い来場者に向けて助成団体に活動報告会を実施していただいています。

2016年度は、岐阜県のNPO いびがわみずみずエコステーションの岩間誠事務局長と岡山県のNPO グリーンパートナーおかやまの藤原瑠美子理事長に行っていました。



いびがわみずみずエコステーション 活動発表



グリーンパートナーおかやま 活動発表

全国 8 団体を助成 (2年間累計 16団体助成)

島根県

NPO

アンダンテ 21

協働と次世代育成をめざした
益田市水環境保全プロジェクト

私たちは、学校や地元組織と協働して清掃活動と自然・環境教育を統一させた野外イベントの開催や環境保全に関する啓発活動を行いながら、地域の水環境保全のプレイヤーとなる次世代の育成に取り組んでいます。



これまでは、高津川を中心とした水環境保全とまちづくり活動を行ってきましたが、活動範囲を海にまで拡大することが出来ました。



理事長 豊田 武雄さん

岐阜県

NPO

いびがわミズ
みずエコステーション西濃地域における揖斐川流域クリーン大作戦・アース
デイいびがわ、揖斐郡地域におけるいび地域環境塾

私たちは、揖斐川流域クリーン大作戦では、毎年ゴミゼロの日に近い5月最終土曜日にゴミ拾いと水質検査、鮎の放流などを行っています。また、いび地域環境塾では、小学生以下の親子を対象に環境に関する体験講座を実施しています。アースデイいびがわでは、毎年10月に地産地消やフェアトレードをテーマとしたイベントなど行っています。



職員を雇用し行政や企業、NPO、参加店舗、各種団体などとの後援や協力依頼、連絡調整などをスムーズに行いながら活動を実施することが出



理事長 中村 賀久さん

来ました。その結果、昨年度に比べ1自治体、300人の参加者を増やすことが出来ました。

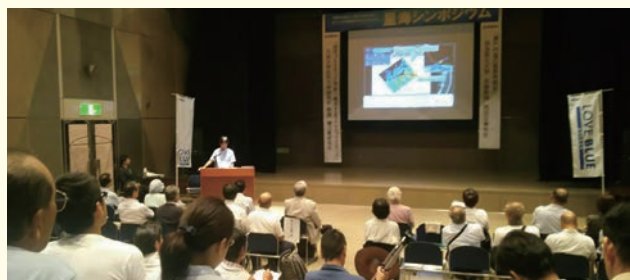
岡山県

NPO

グリーンパートナー おかやま

海ごみから流域環境を考える プロジェクト

私たちは、自然環境保全を訴えるシンポジウムの開催や海底ごみの回収をしています。日頃目に触れることのない「海底ごみ」を、底引き網船で引き揚げ「見える化」するとともに、ワークショップで参加者が議論することで、ポイ捨て防止などの行動改善に繋がります。身近な環境におけるごみ問題を意識してもらうために海ごみの発生原因の一つである川ごみの調査や清掃を行い環境改善に繋がっています。



「海ごみについて知り」「ごみの実態を体感し」「解決に向けて行動する」という一連の流れを単年度で行えるようになり、実践的で効果的な啓発活動が出来るようになりました。また、地球環境基金や日本釣用品工業会からの支援が団体の信頼感に繋がり、参加者の幅が広がりました。



理事長 藤原 瑠美子さん

山形県

NPO

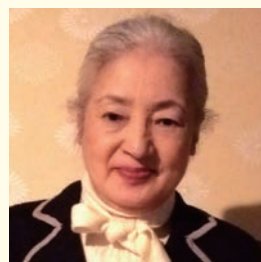
公益のふるさと創り 鶴岡

鶴岡市内川流域の繁茂した藻刈りを市民参加型で実施する体制構築プロジェクト

私たちは、市内の中心地を流れる内川を市民に親しまれる川にするために様々な活動を行っています。特に夏に行う藻刈り活動は、江戸時代より続いている伝統的な風物詩になっています。この藻刈りは内川の川辺の景観形成及びゴミ散乱防止に寄与しています。しかし、重労働のため人材の確保が出来ず、活動が滞っているのが現状です。このような内川の保全活動を市民が自ら実施することを目的として活動を続けています。



内川の水質調査及び植生や水生生物の調査をすることが出来ました。40年前に調査したデータと比較した結果、格段に水環境が改善したことが分かりました。藻刈り活動においては、上流部まで藻刈をした実績から効率良く活動するための人員や日数を知ることができ、5人の活動リーダーを育成することが出来ました。



代表理事 風間 富士子さん

広島県

NPO

自然環境ネットワーク
SAREN広島湾を始めとした瀬戸内海の漂着ゴミ削減
に向けた調査・研究及びゴミ回収実践活動

私たちは、美しい瀬戸内海の実現、海洋生物の保全などを目的として、海ゴミの効果的な回収と拡散防止に向けての調査研究だけではなく、海ゴミ回収と漂着物を利用したアート作品づくりなどを行っています。



広島湾周辺で発生した海ゴミの実態を把握する調査をすることが出来ました。これにより、海ゴミの拡散防止に向けて、効果的に回収するための基礎的な資料を作成することが出来ました。



理事長 脇山 功さん

石川県

NPO

能登半島
おらっちゃんの里山里海能登の“里海”文化の
継承と保全

私たちは、活動のテーマとして、里海を「知る」、里海を「守る」、里海を「楽しむ」の3つをあげ、「知る」活動では、海岸エリアのモニタリング調査やお魚ワークショップ、「守る」活動では、里海のクリーンビーチと里山の森づくり運動、「楽しむ」活動では、子どもたちの渚遊びなどを実施しています。



里海の保全・活用に手を付けることが出来る様になりました。設立当初から里山と里海で活動してきましたが、里山の保全・活用に力を注いでいた為、里海に関しては十分な活動が出来ませんでした。助成のおかげでようやく懸案となっていた里海の保全・活用に手を付けることが出来ました。



理事長 加藤 秀夫さん

鹿 児 島 県

誇れるふるさと ネットワーク

与論島における365日の海岸清掃活動 と大学生との協働による海域調査

私たちは、与論島の海岸や周辺海域の環境保全と地域住民の環境意識の向上を目的として、毎日の自主清掃とそれを習慣として広げるためのごみステーションの設置、活動開始から 1,000 日目に合わせて実施するごみ拾いイベントや生活排水の実態調査、環境教育に関する講座開催、活動報告会などを実施しています。



これまでは他国や他の地域から流れてくる漂着ごみを回収するイベントとしての海岸清掃を行っていましたが、地域内の習慣として根付かせる新たな動きとして、ごみステーションの制作・設置へと着手し、与論町役場の



会長／代表 池田 龍介さん

環境課だけではなく、商工観光課も加わりより地域全体として取り組み始めることが出来ました。また、今年度は海の中の水質改善を図るための講座やイベント、生活排水調査へと活動を広げました。

神 奈 川 県

NPO

ワールド オーシャンズデイ

アマモ場育成を通じた地域連携 ネットワークの構築(鎌倉・腰越)

私たちは、国連が定めた「世界の海の日」＝「ワールドオーシャンズデイ」。世界 70 カ国 750 ヶ所で同時に実施される海の環境を考える取り組みです。たったひとりでのビーチクリーンから数千人が集まる音楽フェスや映画祭まで、国内でも、世界の海の日を祝うイベントの開催を呼びかけています。海のゆりかごと呼ばれる海草「アマモ」を湘南の海に取り戻そうと、地元の漁業組合やダイビングショップ、学校などと一緒にアマモの植付け活動をはじめました。稚魚の成育に役立ち、二酸化炭素の吸収や波を抑える効果が高いとされるアマモ場の育成とビーチクリーンアップなどを地域一丸となって行っています。



計画的なアマモの植付けや、アマモを植える場所の海岸や海中の清掃、アマモ場の底質調査などを実施することが出来ました。これまでの計画的なアマモの植え付けにより、750 本のアマモの定着が確認されました。



代表理事 武田 真由美さん

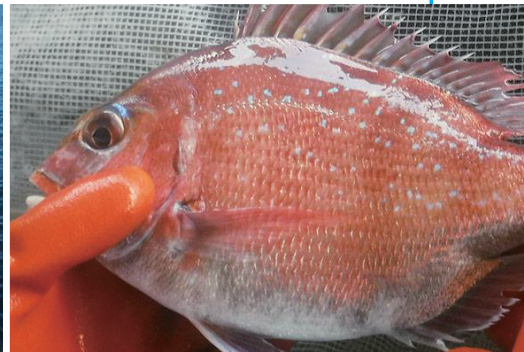
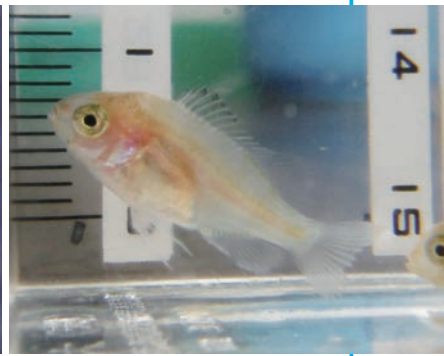
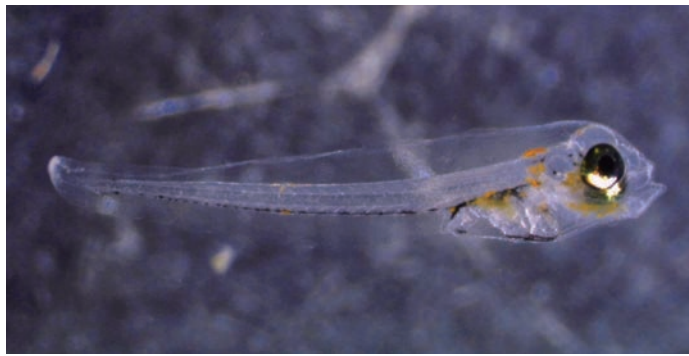
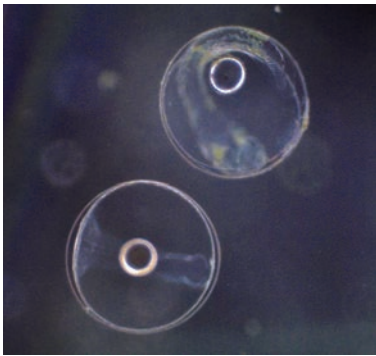
専門機関と連携した放流

LOVE BLUE 事業は、2013年度より栽培漁業の専門機関である（公財）神奈川県栽培漁業協会と連携し、マダイの稚魚の放流を実施しています。受精卵から孵化させ、放流に適したサイズになるまで育成します。2013年夏から東京湾の金沢①、久里浜②、松輪③の3地区沖合に毎年約20万尾放流をしています。また放流後の効果測定にも取り組んでいます。



放流地点は東京湾口の3地点

**放流で東京湾口へ旅だったマダイ達は
約3年で約30cmまで成長すると見込まれています**



約20万尾放流 (4年間累計 約80万尾放流)

放流に関する漁業者、釣り人の声をお届けします。

2017年4月21日 釣獲調査にて

<釣り人の皆さん>

- 東京湾のマダイの放流は知っているよ。放流マダイと天然マダイの違いは、鼻の形で見分けるんだよね。
- マダイが釣れるのは、放流のおかげだったんだね。だからこうしてマダイ釣りが楽しめるんだね。
- シーズン中は週 1 回のペースで（神奈川県横須賀市）久里浜沖（LOVE BLUE の放流地点）にマダイ釣りに来ているよ。「放流か天然か」あまり気にしないよ。マダイが釣れ、楽しめることが大事なんだよ。

<漁業者・遊漁船・釣り船店の皆さん>

- 横須賀市東部漁業協同組合久里浜支所長 鈴木良司さん

「久里浜で遊漁船をやっている釣り船店はすべて、真鯛を放流していることに感謝しています。自然の営みだけを頼りにした天然マダイだけでは、遊漁船は成り立ちません。久里浜沖にはマダイがいる。そういう風にみんなが認識できる状況がずっと続いていることがすごいことなんだよ。」



- 同 元支所長 榎本峯男 さん

「久里浜の遊漁船は、LOVE BLUE 事業が毎年久里浜沖に放流していることにとても感謝しているし、ありがたいと思っています。」



放流マダイと天然マダイ

放流マダイは、ほとんどの個体で、本来は片側に 2 つある鼻の穴が「鼻腔隔壁（びくうかくへき）の欠損」により、つながった状態になっています。これを目印に、漁業や釣り上げたマダイのウロコ等から年齢を調べています。

天然マダイ等では、鼻の穴は片側に 2 つあります。



放流マダイ



天然マダイ



IV



(公財)日本釣振興会 2016 年度事業報告

- ・ 水中清掃事業
- ・ 放流事業
- ・ 防波堤開放事業
- ・ マナー看板設置事業

水中清掃事業

(公財)日本釣振興会による水中清掃の原点となる第1回目は、2006年山梨県河口湖で実施されました。この時はプロダイバー3人に清掃を依頼し、主としてワームを回収しました。この清掃では釣具メーカーにも協力を呼びかけ、約50名が参加して日本釣振興会による水中清掃活動が始まりました。

その後はボランティア活動をしているダイバー団体の協力を得て、年々水中清掃の回数を増やしていき、2016年の河口湖清掃が400回目となり、2016年末には累計実施回数が430回となりました。また、2011年からは受託事業としての水中清掃活動が始まると事業規模も拡大し、2016年は24回の水中清掃にこの事業の資金が活用されました。

この活動には「海をつくる会」「ブルーエコサポート」「(一社)日本レジャーダイビング協会」はじめ、多くのボランティアダイバーほか、各地の漁業協同組合、地元行政、NPO法人、釣り関係者、釣り人団体、日釣振各支部等たくさんの方の協力を得て実施されており、2016年は合計で1,370名の参加がありました。(うち本事業による24回の清掃には765名が参加。)

水中清掃累計400回達成



大阪府 大阪北港マリーナ

参加者 31名



大阪北港マリーナ



清掃に参加して水中からゴミを持ち上げる
日釣振橋本副会長

静岡県田子港

参加者 25名



回収したゴミのデータを集計するダイバー。
回収したゴミは分別され集計されます。

神奈川県秋谷漁港

参加者 20名



地元横須賀市にある神奈川県立海洋科学高等学校の先生と生徒さん達が参加、
漁港周辺のゴミを回収して頂きました。



静岡県焼津港親水公園ふいしゅーな

参加者 44名



毎年実施している水中清掃活動に対して感謝の言葉を述べる静岡県焼津市半田副市長、らち静岡県会議員、奈木焼津漁港管理事務所長

地元静岡県立焼津水産高校の生徒と先生が陸上班として参加。重いゴミを運んで頂きました。また地元の釣具店からも多くのお手伝いの方に参加して頂きました。

静岡県新居海釣り公園

参加者 43名



日釣振静岡県支部 石黒支部長をはじめ、浜名釣具商組合、浜松釣具商組合に協力して頂きました。

清掃当日は「浜名湖クリーン作戦」の日で、日釣振は水中清掃担当として参加しました。

山梨県精進湖（ござんげの鼻周辺）

参加者 34名



精進湖はへら鮒釣りで有名な湖で、日本へら鮒釣研究会も多くの例会を開催しています。ここでの水中清掃には毎年日研山梨地区のメンバーに協力して頂いていますが、2016年の清掃には日研の遠藤理事長、吉本広報部長にも参加して頂きました。

清掃後のゴミの分別、集計。

山梨県西湖（紅葉台）

参加者 25名

①②
③

① クニマスの生存が確認された西湖。この写真の沖周辺にも産卵場所があるとのこと。

② 湖では沈んだボートが時々回収されます。西湖では1日に4隻のボートが揚げたこともありました。

③ 毎回清掃に協力していただいている西湖漁協の三浦組合長。

神奈川県三崎港

参加者 39名

①②
③

① 毎年清掃をしていますが、毎年大量のゴミが回収される三崎港。海底から回収された大きなゴミを岸壁に引き上げる陸上班。

② 釣り人が多い場所なので多数の釣具も回収されますが、毎年不法投棄された大量のゴミも揚げられます。

③ 毎年地元釣具メーカーの社員の方に協力して頂いています。



神奈川県湘南港

参加者 30名



①②
③

①観光地江の島にある湘南港は平日でも多くの釣り人が釣りをしていますが、清掃を行う1時間は釣りを中断して協力して頂きました。

②回収された大型タイヤ。引き上げる時はそばにいる釣り人にも協力して頂きました。

③回収されたゴミの分別作業。

元プロ野球選手(西武・中日)で2,000本安打を達成して引退した和田一浩氏が陸上班として参加。報道陣も多く駆けつけ、盛り上がった清掃となりました。

三重県尾鷲漁港

参加者 35名



静岡県下田港犬走島堤防

参加者 34名



ここの清掃では風で堤防から飛ばされたサオ掛け、椅子等多数回収されます。地元下田釣具商工会、定期的に防波堤の清掃活動を行っている地元の「下田防波堤愛好会」のメンバーに毎年協力して頂いています。

静岡県須崎漁港

参加者 25名



場所によってはダイバーが拾ったゴミを船に回収します。

参加してくれるダイバーは清掃活動を楽しんでいます。

	実施日	実施場所		参加人数		
		県名	場所名	ダイバー	陸上・船	合計
1	4月16日	大阪府	大阪北港マリーナ	12	19	31
2	5月7日	静岡県	西伊豆田子港	17	8	25
3	5月14日	群馬県	榛名湖	15	6	21
4	5月15日	群馬県	榛名湖	14	15	29
5	5月21日	高知県	手結漁港	11	19	30
6	6月4日	静岡県	焼津港親水公園ふいしゅーな	22	22	44
7	6月5日	静岡県	新居海釣り公園	19	24	43
8	6月12日	和歌山県	串本漁港	13	14	27
9	6月15日	静岡県	八幡野漁港	26	15	41
10	7月15日	山梨県	精進湖	10	24	34
11	7月16日	山梨県	西湖	18	7	25
12	7月25日	和歌山県	戸津井漁港	15	8	23

	実施日	実施場所		参加人数		
		県名	場所名	ダイバー	陸上・船	合計
13	7月30日	福島県	松原湖	18	25	43
14	7月31日	福島県	猪苗代湖	18	29	47
15	8月10日	神奈川県	秋谷漁港	16	4	20
16	9月3日	京都府	竜宮浜漁港	18	9	27
17	9月3日	神奈川県	三崎港	19	20	39
18	9月4日	神奈川県	湘南港	20	10	30
19	9月11日	和歌山県	田ノ浦漁港	9	26	35
20	10月19日	三重県	尾鷲漁港	14	21	35
21	10月20日	神奈川県	小田原漁港	14	8	22
22	10月29日	静岡県	須崎漁港	17	8	25
23	10月30日	静岡県	犬走島堤防	16	18	34
24	12月17日	東京都	若洲海浜公園海釣り施設	18	17	35

1都 2府 8県 24回実施 765人参加

放流事業

日本釣振興会では各県支部を通じて 40 年近く放流事業を続けていますが、2015 年からはつり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業の資金を活用した放流を追加事業として実施しており、2016 年は 28 県約 85 か所でヘラブナ、マダイ、カサゴ、ヒラメ、クロダイ、メバル等を放流しました。できるだけ子供達にも参加してもらうため、地元の幼稚園や学校等にも働き掛けています。

東京都水元公園

ギンブナ



東京都の水元公園でギンブナを放流した（左から）鈴木常務理事、常見副会長、伊藤東京都支部事務長

愛媛県森漁港

カサゴ



徳島県津田一文字

カサゴ



兵庫県武庫川河口 他

マコガレイ



佐賀県伊万里湾

マダイ・カサゴ



宮崎県青島海岸

ヒラメ



神奈川県横須賀市海辺つり公園

メバル



新潟県柏崎港

ヒラメ



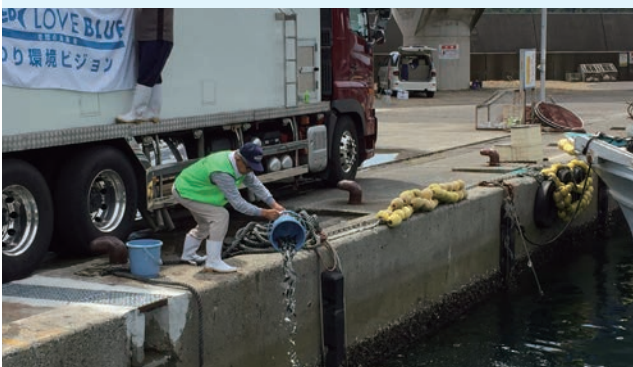
北海道渚滑川

ニジマス



和歌山県みなべ町小目津 他2ヶ所

マダイ・クロダイ



新潟県新潟東港

クロダイ



石川県かほく市 他3ヶ所

クロダイ



京都府舞鶴湾

クロダイ



宮城県まがき港

マダイ



沖縄県宜野湾新漁港

ハマフエフキ



愛知県春日井市釣池 他4ヶ所

ヘブラナ



群馬県鹿の川沼

ヘブラナ



滋賀県彦根港 他3ヶ所

ヘブラナ



埼玉県北本総合公園

ヘブラナ



山梨県内 15ヶ所

アマゴ親魚



静岡県焼津ふいしゅーな

クロダイ



3,977 kg, 84,000 粒,
153,385 尾放流実施

地区 支部	放流場所	実施日	魚種	尾数・kg ・粒
北海道	滝上町 猪滑川	8月7日	ニジマス	140kg
	旭川市 藤沼、砂川市 北光公園他 8 か所	10月9日	ヘラブナ	325kg
宮 城	塩竈市 まがき港	9月6日	マダイ	4,100 尾
栃 木	鬼怒川、大谷川、田川、那珂川、 霧川、秋山川、野上川	11月10日	ヤマメ発眼卵	84,000 粒
群 馬	みどり市 鹿の川沼	11月5日	ヘラブナ	130kg
	上野村 野栗沢	9月28日	ヤマメ親魚	45 尾
埼 玉	北本総合公園	11月24日	ヘラブナ	100kg
	桶川市 川田谷沼	11月24日	ヘラブナ	270kg
	北本総合公園・入間川	11月17日	ギンブナ	90kg
	鴻巣市 明秋・釜虎	10月30日	ヘラブナ	370kg
千 葉	豊英湖	10月30日	ヘラブナ	380kg
東 京	水元公園	11月18日	ギンブナ	90kg
	奥多摩湖	11月16日	ヘラブナ	500kg
神奈川	横須賀市海辺つり公園・ 新安浦港	7月24日	カサゴ	4,630 尾
山 梨	山梨市・甲州市 笛吹川水系 15 か所	10月1日 10月2日	アマゴ親魚	540 尾
	新潟県 新潟市	8月29日	クロダイ	8,650 尾
新 潟	柏崎港	8月6日	ヒラメ	5,000 尾
	石川市 小松市・ 珠洲市・七尾市	8月29日	クロダイ	42,000 尾
岐 阜	美濃市 片知川	2月21日	アマゴ	60kg
	根尾川	3月22日	アマゴ	60kg
静 岡	沼津市 静浦口野港	6月14日	メバル	2,200 尾
	焼津市 ふいしゅーな	9月28日	クロダイ	2,000 尾

地区 支部	放流場所	実施日	魚種	尾数・kg ・粒
愛 知	名古屋・春日井市 釣池等 4 か所	10月21日	ヘラブナ	640kg
	知多市 新舞子マリンパーク	7月18日	カサゴ	1,100 尾
			メバル	1,100 尾
			ヒラメ	1,130 尾
三 重	尾鷲港	10月19日	ヒラメ	1,780 尾
滋 賀	青土ダム、日野川ダム、 長浜港、彦根港	11月8日	ヘラブナ	522kg
京 都	舞鶴湾	8月29日	クロダイ	17,200 尾
奈 良	室生ダム	11月29日	ヘラブナ	300kg
兵 庫	神戸市、尼崎市 3 か所	6月8日	マコガレイ	4,100kg
和歌山	みなべ町、美浜町、 由良町	8月10日	マダイ	490 尾
			クロダイ	5,580 尾
徳 島	徳島市 津田一文字	4月18日	カサゴ	7,800 尾
香 川	観音寺港、 高松朝日町	4月21日	カサゴ	7,800 尾
愛 媛	伊予市 森漁港、 新居浜市 黒島岸壁	4月21日	カサゴ	7,420 尾
高 知	高知市 浦戸港、 土佐市 宇佐湾	4月18日	カサゴ	8,100 尾
佐 賀	伊万里市 伊万里湾	7月18日	マダイ	2,870 尾
			カサゴ	2,870 尾
宮 崎	宮崎市 青島海岸	7月18日	ヒラメ	4,210 尾
鹿児島	鹿屋市 古江港、 垂水市 南垂水港	7月6日	マダイ	5,700 尾
沖 縄	宜野湾新港内及び 沖合 1 Km	10月16日	ハマフエフキ	5,000 尾

防波堤開放事業

釣りの振興のためには魚が良く釣れることとともに、多くの釣り場があることが必要です。過去に釣り場として利用されていた多くの港湾がテロ対策のための国際条約により立入禁止となりました。また釣り人の死亡事故、マナー違反等の理由で釣り場が立入禁止になるケースが全国で起きています。日本釣振興会では安全に釣りを楽しめる釣り場の開放を各地の行政に働きかけており、2016 年 7 月 12 日には新潟県直江津港の第 3 東防波堤に管理釣り場がオープンしました。(全長 460m)

2016 年は 142 日間のオープンでしたが 12,600 名の入場者がありました。3 割が新潟県内、7 割が県外からの釣り人で、地元経済にも寄与しております。週末は朝 4:30 のオープン時から入場制限が必要なほどの人気の釣り場となっています。

今後は地域創生の一つの手段としての釣り場開放を市町村に提案してゆくことになっています。



新潟県上越市 **直江津港第 3 東防波堤** を開放

マナー看板設置事業

全国各地で心ない釣り人によるルールやマナー違反により釣り場が減少しています。これからは安心して釣りが楽しめる釣り場を維持できるように、各地の事情に合わせて文章やイラストを変えた看板を設置し、マナー啓発を呼び掛けています。

4 府県に **154** 枚設置



	場 所	設置月	設置枚数
1	大阪港内24漁港	8月	130
2	茨城県水戸市大塚池	9月	2
3	愛知県 豊浜釣り桟橋公園	12月	5
4	和歌山県田辺市 芳養漁港、目良漁港、内之浦漁港	12月	10
5	和歌山県田辺市 芳養漁港追加分	2月	3
6	和歌山県和歌山市 田野漁港、雑賀崎漁港	2月	4





2016年度LOVE BLUE事業収支報告書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額
【収入の部】		
(1) シール売上収入		
環境・美化シール販売収入	10,000,000	8,944,992
商標使用料収入	210,000,000	191,592,614
雑収入	0	291,819
シール売上収入等計	220,000,000	200,829,425
(2) 環境保全協力金収入（会計間振替）	16,000,000	17,289,019
(3) 環境協力金収入	2,500,000	1,100,000
環境保全協力金収入等計	18,500,000	18,389,019
収入合計	238,500,000	219,218,444
【支出の部】		
I 事業活動費支出		
(1) 水中清掃事業費支出		
清掃業務費支出（プロダイバー）	75,000,000	80,240,743
業務委託費支出（日釣振）	8,500,000	8,477,120
水中清掃事業費支出計	83,500,000	88,717,863
(2) 陸上清掃事業費支出		
陸上清掃費支出	10,000,000	10,000,000
陸上清掃事業費支出計	10,000,000	10,000,000
(3) 放流事業費		
放流事業費支出	15,000,000	15,120,000
業務委託費支出（日釣振）	12,000,000	11,995,457
放流事業費支出計	27,000,000	27,115,457
(4) 釣り場拡大事業費支出		
釣り場拡大事業費支出（日釣工）	10,000,000	575,640
釣り場拡大事業費支出（日釣振）	30,000,000	10,361,207
マナー看板設置費支出（日釣振）	5,000,000	2,739,960
釣り場拡大事業費支出計	45,000,000	13,676,807
(5) 予備費支出		
予備費支出計	10,000,000	0
事業費支出計	175,500,000	139,510,127
事業費比率	73.6%	63.6%

(6) 運営経費支出		
LOVE BLUE人件費支出	22,315,237	22,807,678
環境・美化シール印刷費支出	350,000	345,600
旅費交通費支出	8,000,000	5,931,341
通信運搬費支出	1,200,000	1,018,850
資料作成費支出	1,000,000	1,776,161
宣伝費支出	15,000,000	17,195,870
租税公課支出	4,000,000	2,884,110
振込手数料支出	50,000	0
会議費支出	500,000	21,916
支払手数料支出	100,000	0
諸謝金支出	100,000	222,649
消耗品支出	300,000	84,886
雑支出	500,000	22,820
運営経費支出計	53,415,237	52,311,881
事業活動費支出合計	228,915,237	191,822,008
事業費比率	96.0%	87.5%
事業活動収支差額	9,584,763	27,396,436
II 振替経費支出		
振替人件費支出	3,724,691	1,800,175
その他一般管理費支出	2,418,100	1,897,518
租税公課支出	259,350	216,349
支払利息支出	36,536	30,514
F会館維持管理費支出	351,700	102,027
修繕費支出	91,000	249,265
振替経費支出計	6,881,377	4,295,848
【投資活動収支の部】		
(1) 投資活動収入		
投資活動収入計	0	0
(2) 投資活動支出		
特定預金取得 支出	556,735	1,528,673
退職給付引当預金取得支出	556,735	1,528,673
固定資産取得 支出	1,000,000	1,980,298
商標権取得支出	1,000,000	1,980,298
投資活動支出計	1,556,735	3,508,971
投資活動収支差額	△ 1,556,735	△ 3,508,971
当期収支差額	1,146,651	19,591,617
前期繰越収支差額	35,324,643	35,324,643
次期繰越収支差額	36,471,294	54,916,260

LOVE BLUE 事業報告書 2016 発刊にあたり

釣りの起源は人類の歩みとともに古いものです。日本でも縄文時代にはすでに釣りが行なわれており、当時の釣り針が太平洋側の関東以北の遺跡や貝塚から発見されています。古事記にも神様が釣りを楽しんでいる様子が記載されています。そしてレジャーとしての釣りは、江戸時代の武士の間から広がっていったといわれています。

このように長い歴史を持つ釣りにかかわる(一社)日本釣用品工業会と(公財)日本釣振興会は、社会の変化に対応し、自然との共生を進めるため、5年前から協働でつり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業に取り組んでいます。この LOVE BLUE 事業の三本柱「水辺をキレイに」「サカナを守ろう」「フィールドを広げよう」に取り組む両団体の活動は、社会貢献事業としても社会的に高い評価を得つつあります。

現在この事業への参加企業・団体は、240を越え、全国各地でのさまざまな活動との連携が進んでいます。たとえばエコライフ・フェア 2016に出展し、丸川珠代環境大臣(当時)よりメッセージを頂き、沖縄クリーンコーストネットワーク(OCCN)や第36回全国豊かな海づくり大会~やまがた~との連携も行いました。また釣り場の開放(新潟県上越市)にも取り組み、地元経済へ貢献もしています。こうしたことから自治体や漁業者の皆様をはじめ多くの方々からの感謝の声が広がっています。また、このような着実な実績を環境省小林正明事務次官にもご報告し、環境省からは、本事業へのご理解と今後の一層のご協力をお申し出頂きました。

LOVE BLUE 事業の更なる発展を期待するものです。



京都大学名誉教授
松下和夫

公式FACEBOOK・公式ホームページのご案内

公式FACEBOOKでは最新の情報(水中クリーンアップ活動等)を配信しています。

公式ホームページでは自治体や地元からの生の声や、詳細な活動報告を掲載しています。

ぜひご覧ください。



FACEBOOK LOVEBLUE 検索

LOVE BLUE
FACEBOOK



LOVEBLUE 検索

LOVE BLUE HP
<http://www.loveblue.jp/>



編集協力：公益財団法人日本釣振興会
104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館3階
TEL：03-3555-3232 FAX：03-5542-2941

編集・発行：一般社団法人日本釣用品工業会
104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館5階
TEL：03-3555-0101 FAX：03-5542-2929 E-mail：info-fev@jaftma.or.jp

